

医薬原薬・中間体

ビジネストレンドを読む

①

医薬原薬・中間体を取り巻く市場環境が大きく変わろうとしている。政府の医療費抑制策にともなうジェネリック医薬品（後発薬）の台頭、相次ぐ薬価引き下げを受けた医薬メーカーの収益改善策などが背景にある。原薬・中間体メーカーにとってはコスト面などで海外勢を含めた競合激化の要因ともなっている。「第11回国際医薬品原料・中間体展(CPhI Japan 2013)」(主催・化学工業日報社、UBMジャパンなど)が4月24～26日、東京ビッグサイトで開催される。高い技術力・品質管理力で存在感を示す日本企業の姿勢をうかがうことができる。

「コスト対応厳しく

「日本の医薬品市場は、長期的な伸びは期待できない」と、ある医薬原薬・中間体メーカー首脳は見通す。高齢化社会の進行という趨勢はあるものの、医療

激化する国際競争



日本の医薬原薬・中間体メーカーは技術力・品質管理能力が強み。今後はコスト競争力も問われる

込まれる連続薬価改定は、売上高の2割程度を研究開発につき込む構造の医薬品メーカーにとつて厳しい現実を突きつける。この流れは原薬・中間体メーカーへのコストダウン要請を格下ろし、また低価格なジェネリック医薬品の普及を考

え、ある医薬原薬・中間体メーカー首脳は見通す。高齢化社会の進行という趨勢はあるものの、医療

ま一方、汎用品としてジェネリック医薬品が普及することは間違いないところ。医薬原薬・中間体メーカーにとつて、この環境変化への対応は急務だ。

後発薬参入相次ぐ

もあるようにリスクも大きい。1つのジェネリック医薬品に参入するメーカーが増えれば年を追うごとに汎用化し、原薬メーカーへのコストダウン要請も強まる

注目集まるインド

こうしたことを背景に、有機合成薬品工業が昨年から原薬出荷を始めたほか立山化成も本格参入を決めるなど、ジェネリック原薬への参入も活発化している。各社は確固たる品質保証体制を整え、高い信頼を勝ち得ていきたい考えだ。ただ、「毎年1品目ずつ着実に増やしていく」との慎重姿勢

中間体のインド生産を表明した。現地パートナーの工場内で13年度末に専用設備を建設。日本の品質管理能力を持ち込み、インドの安価製造と組み合わせることで競争力を高める。進出例はまだ少ないが、この流れは今後強まるとみられる。

勝ち残りへ「総合力」カギ

「技術」「品質」「コスト」を合わせた総合力がカギを握ることは間違いない。